



報道者各位

2013年11月1日
国際協力機構（JICA）
カンボジア事務所

ニュースリリース

カンボジアの工学系人材育成を後押し ～カンボジア工科大学への教育機材引渡式典～

カンボジア工科大学（プノンペン市内）
フン・セン講堂にて10月31日（木）、
一般文化無償資金協力「カンボジア工科大学地圏資源・地質工学部教育機材整備計画」及び技術協力「カンボジア工科大学教育能力向上プロジェクト」に基づき、授業用教材及び野外実習用機材（合計約1億8,800万円相当）を、カンボジア工科大学に供与する引渡式典が開催されました。

同式典には、ハン・チュオン・ナロン教育省大臣ほか、隈丸優次カンボジア王国駐箚特命全権大使及び井崎宏 JICA カンボジア事務所長、そして1,000人を超える同校の学生が出席しました。



写真：ハン・チュオン・ナロン教育省大臣（右）と隈丸優次大使（左）によるテープカット（10月31日、プノンペン市内）

カンボジアは、金・銅・亜鉛などの鉱物資源を豊富に埋蔵しているとされ、近年では、外資系企業等の民間投資も含め、資源採掘の動きが活発化しています。その一方、1970年代から約20年続いた内戦の影響により、鉱業行政や鉱業活動を担う人材が大幅に不足しているのが現状です。このため、国内随一の国立工科系専門高等教育機関であるカンボジア工科大学は、1991年に閉鎖された地質工学部を、2011年10月に地圏資源・地質工学部として再開しました。

しかし、同大学では同学部の講義や、地質学・鉱床学等の実習を行うための教育用機材を殆ど保有していなかったため、カンボジア政府は日本政府に対し教育用機材の整備を要請し、2011年8月に授業用教材及び野外実習機材（X線回折装置、偏光顕微鏡、岩石切断・研磨装置、等）を供与する「カンボジア工科大学地圏資源・地質工学部教育機材整備計画」に係る贈与契約が署名されました。これらの機材を整備することにより、同大学の教育環境が充実し、鉱山技師、地質技師及び鉱業行政を担う人材の育成が促進され、今後国内で有望とされる鉱業開発が推進されることが期待されます。

また、製造業を含む日系企業のカンボジアへの進出が昨今活発化している動きを受け、JICAは2011年から技術協力「カンボジア工科大学教育能力向上プロジェクト」を実施し、カンボジア工科大学の産業機械分野及び電気エネルギー分野への教育機材供与などによる学部教育の質の向上も支援しています。学習環境、教授法、シラバス等を改善することで、産業界から強く求められている実践的なスキルを持ったエンジニアレベルの工学系人材が輩出されるようになることが期待されています。

別添

今回供与された教育用機材（一部紹介）



写真1：偏光顕微鏡 24 台。地球資源・地質工学科には顕微鏡は従来 1 台も無かったため、学生教育の飛躍的な質の向上が期待される。



写真2：カンボジアで初めて導入された X 線回折装置(XRD)。今後は鉱業会社等からの鉱物等の分析依頼も期待され、産業界との連携が深まる事も期待される。



写真3：電気電子実験キット。学生実験用として目視で状況を判りやすい実験キットが初めて納入され、電気エネルギー学科学生の理解が一層深まる事が期待される。



写真4：カンボジアで初めて導入された精密万能材料試験機。ひずみ測定や引張強度などの測定が可能で、従来はテキストだけの理解だった産業機械学科の学生の理解が更に深まる事が期待される。